

2006年度  
群馬大学小児科卒業試験問題

2006年11月27日

【以下の問に答えよ】

問1. 発達について、誤っているものはどれか。

- (1) 乳児の発達をWISC-I I I 知能検査法で検査する
- (2) 学童の発達を津守・稲毛式質問要旨で検査する
- (3) 発達指数 (DQ) = 発達年齢 ÷ 暦年齢 × 100
- (4) 知能指数 (IQ) = 精神年齢 ÷ 生活年齢 × 100
- (5) IQ平均は100である

a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)      d. (3)(4)      e. (4)(5)

問2. 発育について、誤っているものはどれか。

- (1) 体重は生後3, 4ヶ月の間ゆっくり増加する。
- (2) 体重は生後1年で3倍になる。
- (3) 身長は最初の1年で出生時の1.5倍になる。
- (4) 身長は4歳で出生時の2倍になる。
- (5) 身長は12歳で出生時の3倍になる。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問3. 乳児健診について、正しいものはどれか。

- (1) 1カ月には体重が生下時の2倍になる。
- (2) 3カ月までに首がすわる(定頸) ことがなければ、運動発達の遅滞を疑う。
- (3) 12カ月までにえんこ(おすわり) ができれば正常である。
- (4) 1才6カ月で一人歩きできないときは、運動発達の遅滞を疑う。
- (5) 3才時の健診では、聴力、視力を含む総合的なチェックを行う。

a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)      d. (3)(4)      e. (4)(5)

問4. 学校保健、予防接種について、誤っているものはどれか。

- (1) 結核は学校伝染病である。
- (2) 百日咳は特有の咳が消失するまで出席停止とする。
- (3) BCG接種は乳幼児と小学校1年で実施される。
- (4) 新2種混合(MR) ワクチンとは麻疹と水痘の混合ワクチンをさす。
- (5) けいれんがみられたら、次の予防接種は一定の期間、見合わせる。

a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)      d. (3)(4)      e. (4)(5)

問5. 乳児を診察するにあたり、誤っているものはどれか。

- (1) 乳児の必要水分量は成人の3倍である。
- (2) 6カ月児のエネルギー必要量は約400 Kcal/日である。
- (3) 母乳栄養児と比較し、人工栄養児では黄疸が遷延化しやすい。
- (4) Kaup指数は乳幼児の栄養状態の判定に用いられる。
- (5) 問診上、妊娠・分娩歴は重要である。

a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)      d. (3)(4)      e. (4)(5)

問6. 小児の各年齢の所見で、異常と考えられる組み合わせはどれか。

- (1) 乳児——胸式呼吸
- (2) 6カ月児——大泉門閉鎖
- (3) 5歳児——胸腺肥大
- (4) 8歳児——心尖部楽音様収縮期雑音
- (5) 11歳児——陰毛発生

a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)      d. (3)(4)      e. (4)(5)

問7. アレルギー性疾患について、正しいものはどれか。

- (1) 秋の花粉症のアレルゲンの代表はカモガヤ花粉である。
- (2) 小児にはアスピリン喘息は希である。
- (3) 食物依存性運動誘発性アナフィラキシーのアレルゲンとして米が重要である。
- (4) 口腔アレルギー症候群では鶏卵が代表的アレルゲンである。
- (5) 乳児アトピー性皮膚炎で検出されるアレルゲンでは大豆が多い。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問8. 誤っている組み合わせはどれか。

- (1) ぶたくさ----- 梅雨時期の代表的な花粉
- (2) しらかば花粉----- 口腔アレルギー症候群
- (3) ロイコトリエン----- 鼻閉
- (4) 喘息死-----  $\beta$ 刺激薬 pMDI の乱用
- (5) 気道過敏性----- アセチルコリン吸入試験

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 9. 免疫不全症候群について、正しい組み合わせはどれか。

- (1) 慢性肉芽腫症-----溶連菌殺菌能の低下
- (2) 怠け者白血球症候群-----好中球の貪食能低下
- (3) 高 IgE 症候群-----再発性のブドウ球菌感染症。
- (4) X連鎖無ガンマグロブリン血症----麻疹の重症化
- (5) Wiskott-Aldrich 症候群----低 Ca 血症

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

6才の女兒。母親が喘息。生後2ヶ月より顔面を主体にした湿疹の増悪を繰り返した。生後7ヵ月時、卵とじ、生後8ヶ月のときお麩を食べさせたところ10分以内に口唇の腫脹と眼瞼浮腫、顔面全体のじんま疹がみられた。1歳頃より湿疹は改善したが、感冒時に咳嗽と喘鳴が出現していた。一昨年9月(4歳時)、喘鳴、呼吸困難が増強して初回の入院加療を受けた。その後、テオフィリン徐放性剤とDSCG吸入による治療をうけていたが、ここ1年間で感染や運動時に咳嗽や軽度喘鳴が毎週ではないが、1回/月以上は認めていた。今回は、昨日、祖母宅へ行き、花火をしたところ咳き込み、その夜、喘鳴が出現、明け方になり苦しくて寝られなため来院した。受診時、会話はややとぎれがちで、喘鳴と呼気の延長があり、明らかな陥没呼吸を認めた。検査所見では酸素飽和度は94%、IgE 520 IU/mL、RAST SCOREはダニ(4)、屋内塵(3)であった。

問 10. 本患児について、誤っているものはどれか。

- (1) 本患児のような経過をアレルギーマーチと呼ぶ。
- (2) 乳児期はアトピー性皮膚炎であった。
- (3) 卵およびその製品の除去は生涯必要である。
- (4) 麻疹の予防接種は禁忌である。
- (5) 生後8ヶ月時の特異IgE検査では、卵白とオボムコイド、小麦が陽性であった。

a. (1)(2)            b. (1)(5)            c. (2)(3)            d. (3)(4)            e. (4)(5)

問 11. 本患児について、正しいものはどれか。

- (1) 喘息の重症度は軽症持続型である。
- (2) 今回の発作重症度は大発作である。
- (3) 血液ガス分析では、炭酸ガス濃度は41mmHg以下が予想される。
- (4) 今回の発作の誘引として、花火や外泊などが想定される。
- (5) 発作治療として、イソプロテレノール持続吸入が第一選択である。

a. (1)(2)            b. (1)(5)            c. (2)(3)            d. (3)(4)            e. (4)(5)

問 12. 本患児の長期管理として、誤っているものはどれか。

- (1) 吸入ステロイドが基本治療である。
- (2) 薬剤のコンプライアンスを確認する。
- (3) 適切な環境整備を指導する。
- (4) ピークフローを測定する。
- (5) テオフィリン血中濃度を  $15 \mu\text{g/ml}$  以上に維持する。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

【以下の問に答えよ】

問 13. 小児の呼吸器疾患の診察について、誤っているものはどれか。

- (1) 先天性喘鳴をきたす疾患に喉頭軟化症がある。
- (2) 巨舌症では吸気時の喘鳴 (stridor) が聴取される。
- (3) 心因性の咳嗽では、睡眠障害を伴う頻度が高い。
- (4) 血管輪は気管支造影にて確定診断される。
- (5) 気管支異物の診断に吸気時、呼気時の胸部 X 線写真が重要である。

a. (1)(2) b. (1)(5) c. (2)(3) d. (3)(4) e. (4)(5)

問 14. 小児の下気道感染症について、正しいものはどれか。

- (1) ライノウイルスによる肺炎は少数である。
- (2) マイコプラズマ肺炎は新生児期の肺炎として頻度が高い。
- (3) RS ウイルスは学童の反復性肺炎の原因となる。
- (4) 百日咳では一般にリンパ球の減少がみられる。
- (5) Pneumatocele がみられたら、ブドウ球菌性肺炎を疑う。

a. (1)(2) b. (1)(5) c. (2)(3) d. (3)(4) e. (4)(5)

【以下の文を読み問に答えよ】

3 カ月男児。一昨日より、鼻汁、咳が出現し、近医にて加療されていた。本日夕方より乾性咳嗽、喘鳴がみられ紹介となった。体温は37.8℃、呼吸数1分間40回で、胸部聴診では明らかな喘鳴が聴取された。血液検査では血沈1時間値25mm/hr、CRP1.2mg/dl、白血球数9,500/mm<sup>3</sup>、酸素飽和度は91%であった。家族歴、既往歴でも特記すべきことはなかった。受診時の胸部X線写真を示す(図1)。

問15. 本症例で最も疑われるべき疾患はどれか。

- (1) 細菌性肺炎
- (2) 百日咳
- (3) 気管支異物
- (4) 急性細気管支炎
- (5) ウイルス性クループ

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問16. 本症例について、正しい組み合わせはどれか。

- (1) 産道感染の頻度が高い。
- (2) 呼気時に高調性喘鳴(wheezing)が聴取される。
- (3) 胸部X線写真では両側肺野の含気量増加がみられる。
- (4) 問診を行うにあたり兄弟の予防摂取歴が重要である。
- (5) マクロライド系の抗菌薬を用いて治療する。

a. (1)(2) b. (1)(5) c. (2)(3) d. (3)(4) e. (4)(5)

【以下の問に答えよ】

問17. 正しい組合せはどれか。

- (1) ジフテリア-----心筋障害
- (2) 百日咳-----副鼻腔炎
- (3) 猩紅熱-----急性膵炎
- (4) 流行性耳下腺炎-----肝炎
- (5) 風疹-----血小板減少性紫斑病

a. (1)(2) b. (1)(5) c. (2)(3) d. (3)(4) e. (4)(5)

問 18. 2 か月未満の乳児の敗血症または髄膜炎の起炎菌として、頻度の高いものはどれか。

- (1) 緑膿菌
- (2) 大腸菌
- (3) A群β溶連菌
- (4) 肺炎球菌
- (5) インフルエンザ桿菌

a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)      d. (3)(4)      e. (4)(5)

問 19. 関係が深い組み合わせはどれか。

- (1) 混合性結合組織病 ----- レイノー現象
- (2) 全身性エリテマトーデス ---- 皮下石灰化
- (3) 若年性関節リウマチ ----- ゴットロン徴候
- (4) 皮膚筋炎 ----- 抗 U1-RNP 抗体
- (5) ベーチェット病 ----- ぶどう膜炎

a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)      d. (3)(4)      e. (4)(5)

問 20. 小児感染症について、正しい組み合わせはどれか。

- (1) 咽頭結膜熱 ----- ヒトパルボウイルス B 19
- (2) 仮性クループ ----- パラインフルエンザウイルス
- (3) 急性胃腸炎 ----- Small round structured virus (SRSV)
- (4) 手足口病 ----- ライノウイルス
- (5) 溶血性尿毒性症候群 --- 黄色ブドウ球菌

a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)      d. (3)(4)      e. (4)(5)

【以下の文を読み問に答えよ】

10歳の女児。生来健康であったが、3か月前から首、両肩関節、両膝関節の痛みを訴えていた。さらに2か月前から右手第2指、左手第3指の腫れと痛みが生じるようになった。以上の症状は、特に朝方が強く、精査加療目的にて当科外来に紹介受診となった。来院時の所見では、体温 37.3℃、呼吸数 30/分、脈拍 80/分整であった。検査所見では、軽度の貧血と好中球優位の白血球数の上昇を認めた。CRP 8.5 mg/dl、ESR 95 mm/hr、抗核抗体 80 倍、リウマトイド因子陽性であった。

問 21. この疾患について正しいものはどれか。

- (1) 脊椎や股関節の病変は少ない。
- (2) 心嚢炎や肝脾腫を伴うことが多い。
- (3) シューグレン症候群を高頻度に合併する。
- (4) 虹彩炎の合併が多い。
- (5) 関節炎は移動性である。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 22. 正しいものはどれか。

- (1) 単純 X P で関節裂隙の狭小化は認めない。
- (2) 抗カルジオリピン抗体が陽性である。
- (3) HLAB51 が多い。
- (4) 血清補体は高値である。
- (5) 抗 TNF 療法は結核の発症頻度が増加することが問題である。

a. (1)(2) b. (1)(5) c. (2)(3) d. (3)(4) e. (4)(5)

【以下の問に答えよ】

問 23. Wilson 病について、正しいものはどれか。

- (1) 常染色体優性遺伝形式をとる。
- (2) 尿中銅排泄は減少する。
- (3) 肝組織中の銅含有量は増加する。
- (4) 肝不全に陥った例は肝移植の適応となる。
- (5) 特殊ミルクによる治療が主体である。

a. (1)(2) b. (1)(5) c. (2)(3) d. (3)(4) e. (4)(5)



問 24. 先天性胆道閉鎖症について、正しいものはどれか。

- (1) 常染色体劣性遺伝形式をとる。
- (2) 血便を認める例が多い。
- (3) 高直接ビリルビン血症を呈する。
- (4) 膵胆管合流異常を合併する例が多い。
- (5) 生後 6 ヶ月以内に手術を行うと予後は良好である。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

日齢 25、男児。主訴は嘔吐。在胎 39 週 3 日、出生体重 2875 g、正常分娩にて出生、第 1 子。母乳栄養。1 週間ほど前から嘔吐を認めるようになり、量・回数とも多くなってきたため来院。嘔吐は哺乳直後から 30 分ごろに多く、噴水のように吐く。吐物は黄白色液体、血液を混じらない。

<現症>意識清明。大泉門平坦。皮膚、眼球結膜に軽度の黄染あり。皮膚ツルゴール低下。腹部は平坦、軟、右季肋下に長径 3 cm ほどの腫瘤を触知する。腹部超音波検査を示す (図 2)。

問 25. 本例に認められる検査所見はどれか。

- (1) 白血球減少
- (2) 代謝性アルカローシス
- (3) 高クロール血症
- (4) 高カルシウム血症
- (5) 高アミラーゼ血症

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 26. 本例の治療として、正しい組み合わせはどれか。

- (1) 経鼻胃チューブから通常量のミルクを注入する。
- (2) キレート剤を投与する。
- (3) 抗生剤の静脈内投与を行う。
- (4) 硫酸アトロピン静注療法を行う。
- (5) 手術を行う。

a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)      d. (3)(4)      e. (4)(5)

【以下の問に答えよ】

問 27. 正しいものはどれか。

- (1) アルポート症候群では免疫蛍光染色で IgG が血管係蹄に沈着する。
- (2) 溶血性尿毒症症候群では補体が低下する例が多い。
- (3) Fishberg 尿濃縮試験は近位尿細管機能を調べる検査である。
- (4) 溶連菌感染症後急性糸球体腎炎ではステロイド剤による治療が第一選択となる。
- (5) 紫斑病性腎炎で組織学的に半月体の多い症例は予後が悪い。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 28. 巣状糸球体硬化症 (FGS) について、正しいものはどれか。

- (1) 硬化病変は皮髄境界部領域より出現する。
- (2) 腎組織上、免疫蛍光染色で硬化部位に一致して IgG が沈着する。
- (3) 尿蛋白選択性(selectivity index)では高選択性を示す。
- (4) ステロイド剤に感受性症例が多い。
- (5) 腎組織で foam cell (泡沫細胞) が出現する。

a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)      d. (3)(4)      e. (4)(5)

【以下の文を読み問に答えよ】

6歳の男児。5月上旬より眼瞼の浮腫に気づいた。5月15日近医受診。検査所見にて T-P 3.9g/dl Alb 1.9g/dl AST 15 IU/l AST 16 IU/l LDH 250 IU/l T-cho1 425mg/dl、BUN 42mg/dl Cr 0.9mg/dl 補体正常、抗核抗体陰性、抗DNA抗体陰性 尿検査で尿蛋白(++++)、潜血(±)、尿沈渣で赤血球5~10/每視野、円柱(-)、一日尿蛋白量5.0gであった。

問29. 入院時の所見から考えにくい疾患はどれか。

- (1) 微小変化型ネフローゼ症候群
- (2) ループス腎炎
- (3) 膜性増殖性腎炎
- (4) 膜性腎症
- (5) 巣状糸球体硬化症

a. (1)(2)            b. (1)(5)            c. (2)(3)            d. (3)(4)            e. (4)(5)

入院後の腎生検で光学顕微鏡では有意な所見はなく、免疫蛍光染色ではIgG、IgA、IgM、C3、C4いずれも沈着なく、電子顕微鏡にて上皮細胞足突起の癒合のみが認められた。また、治療により10日間ほどで尿蛋白は陰性化した。

問30. この疾患について、正しいものはどれか。

- (1) 好発年齢は3~6歳である。
- (2) 尿蛋白の選択性は高い。
- (3) 治療の第一選択は抗生剤である。
- (4) 再発をきたすことは少ない。
- (5) 男女差は1:2と女兒に多い。

a. (1)(2)            b. (1)(5)            c. (2)(3)            d. (3)(4)            e. (4)(5)

【以下の問に答えよ】

問31. 小児心疾患の診断法について、誤っているものはどれか。

- (1) II音は、胸骨左第IV肋間の高さで最も良く聴取できる。
- (2) 還元型Hb濃度と、チアノーゼの程度は正相関する。
- (3) 下肢の脈が触知しづらいときは大動脈縮窄症合併を疑う。
- (4) 高位心室中隔欠損経過観察中には、大動脈弁逸脱の合併に注意する。
- (5) 動脈管開存症では胸骨左縁第二肋間に連続性雑音を聴取する。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問 32. 各疾患の対応や治療について、誤っているものはどれか。

- (1) ファロー四徴症の無酸素発作予防に $\beta$ 遮断薬を投与する。
- (2) 完全大血管転位症（肺動脈弁狭窄なし、心室中隔欠損なし）に、Jatene 手術を行う。
- (3) 動脈管依存性心疾患を疑った新生児には、酸素を投与する。
- (4) チアノーゼ性心疾患の児が吐き気を訴えた場合は、脳膿瘍の合併を疑う。
- (5) 出血を伴う歯科処置を受ける時には、感染性心内膜炎予防を目的に、処置前から抗生物質を投与する。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

労作時息切れを主訴に来院した 30 才の女性。胸部聴診上、II 音の亢進を認め、酸素飽和度は 92%であった。心臓超音波検査の画像を示す（図 3）。

問 33. 本疾患について、誤っているものはどれか。

- (1) 新生児期に手術をする。
- (2) 病初期は、右房および右室に容量負荷をもたらす。
- (3) 放置すると経過観察中に不整脈を生じる。
- (4) 部分肺静脈還流異常を合併する。
- (5) 学校検診は発見理由の一つである。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問 34. 本症例について、誤っているものはどれか。

- (1) 右室の圧負荷を認める。
- (2) 診察所見および心室中隔の形態から高度の肺高血圧を合併している。
- (3) 三尖弁閉鎖不全速度が測定できれば、右室収縮期圧を推定可能である。
- (4) 直ちに欠損孔閉鎖術を行う。
- (5) 血栓症の合併に注意する必要がある。

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

【以下の問に答えよ】

問 35. 正しいものはどれか。

- (1) 成熟 B-ALL は一般に FAB 分類で ALL-L3 の形態をとる。
- (2) T-ALL では高頻度に腹部腫瘍がみとめられる。
- (3) *TEL/AML1* キメラ遺伝子をもつ ALL は一般に予後不良である。
- (4) 乳児白血病では高頻度に自然寛解が認められる。
- (5) Down 症候群では ANLL (M7) を高率に発症する。

a. (1) (2)      b. (1) (5)      c. (2) (3)      d. (3) (4)      e. (4) (5)

問 36. 正しいものはどれか。

- (1) 母乳栄養児は人工栄養児に比べて貧血になりにくい。
- (2) サラセミアは大球性貧血となる。
- (3) 再生不良性貧血の治療にシクロスポリンが使用される。
- (4) Diamond-Blackfan 貧血の診断にはコロニーアッセイが必要である。
- (5) 血友病の出血症状は表在性出血を特徴とする。

a. (1) (2)      b. (1) (5)      c. (2) (3)      d. (3) (4)      e. (4) (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

5歳の女兒。既往歴・家族歴に特記すべき事項なし。2週間前より37°C台後半の微熱があり、近医にて感冒薬、解熱剤などの処方を受けていた。2日前より顔色が悪い印象があり、食欲も落ちてきたため、病院を受診した。

現症：体温37.8°C、体重17kg、血圧90/65 mmHg 胸部：心雑音なし、肺雑音なし

腹部：肝を2横指、脾2横指触知 四肢：下肢に点状出血斑が散在

頸部、そけい部に1cm~2cm大のリンパ節を複数触知

<検査所見>

Hb 7.2g/dl, Hct 21.3%, RBC 225万/ $\mu$ l 網状赤血球比率1.2% WBC 180,000/ $\mu$ l, Plt 2.3万/ $\mu$ l 総蛋白7.2g/dl, 総ビリルビン0.7mg/dl, AST 52 IU/l, ALT 23 IU/l, LDH 955 IU/l BUN 12 mg/dl, Cr 0.6 mg/dl, 尿酸 11.2mg/dl, Na 138 mEq/l, K 4.8 mEq/l, Cl 109 mEq/l, Ca 10.2 mg/dl, CRP 4.5 mg/dl

<骨髄検査所見> ライト・ギムザ染色(図4)

表面マーカー解析 CD10, CD19, HLA-DR, CD34 陽性、表面免疫グロブリン(SmIg) 陰性

染色体検査 46, XX, t(9;22)(q34;q11) 20/20

問37. 本症例の遺伝子解析で検出が予想されるものはどれか。

- (a) AML1/MTG8
- (b) MLL/AF4
- (c) BCR/ABL
- (d) PML/RAR $\alpha$
- (e) E2A/PBX1

a. (1) b. (2) c. (3) d. (4) e. (5)

問38. 本症例について、正しいものはどれか。

- (1) Allopurinolを投与する。
- (2) 第一寛解期骨髄移植の適応である。
- (3) All-trans-retinoic acid (ATRA)が有効である。
- (4) 中枢神経浸潤の予防のためにVincristineの髄腔内投与を行う。
- (5) 表面マーカー解析はT-cell系の形質を示している。

a. (1)(2) b. (1)(5) c. (2)(3) d. (3)(4) e. (4)(5)

【以下の問に答えよ】

問 39. 新生児の感染症について、正しいものはどれか。

- (1) 先天性サイトメガロウイルス感染症にガンシクロビルは無効である。
- (2) HIV 合併妊娠においては、HIV 感染症を予防するために人工乳より母乳栄養が優れる。
- (3) B 群溶血性連鎖球菌 (GBS) 肺炎は呼吸窮迫症候群 (RDS) 類似の胸部 X 線写真像を呈する。
- (4) 米国では GBS 感染症予防策の分娩時母体 ABPC 投与普及後に薬剤耐性大腸菌による新生児敗血症が増加した。
- (5) 新生児壊死性腸炎に特徴的な X 線写真像はイレウス像と腹腔内ガス像である。

a. (1) (2)            b. (1) (5)            c. (2) (3)            d. (3) (4)            e. (4) (5)

問 40. 出生後の新生児に行う蘇生処置として適切なものはどれか。

- (1) 口鼻腔の吸引を手早く行った。
- (2) 十分な胃内容物の吸引を行い、胃液の逆流を避けるよう配慮した。
- (3) 皮膚が羊水で濡れているため、直ちに沐浴を行った。
- (4) 児を逆さつりにして背中をたたいて呼吸を促進した。
- (5) 呼吸刺激を行っても自発呼吸が出現しないため、自己膨張式バッグ (AMBU バッグ) を用いた換気を行った。

a. (1) (2)            b. (1) (5)            c. (2) (3)            d. (3) (4)            e. (4) (5)

問 41. 新生児黄疸性疾患について、正しいものはどれか。

- (1) 光線療法の適応基準の血清ビリルビン値は日齢に関わらず一定である。
- (2) 光線療法中に交換輸血基準の血清ビリルビン値を超えても、光線療法を継続してビリルビン値が低下すれば良い。
- (3) 先天性胆道拡張症は新生児期に白色便、黄疸、高直接ビリルビン血症にて発症する。
- (4) ABO 血液型の母児間不適合は児の溶血性黄疸の原因となる。
- (5) 光線療法とは、ビリルビンをその光学異性体に変換し、尿便中への排泄を容易にする治療である。

a. (1) (2)            b. (1) (5)            c. (2) (3)            d. (3) (4)            e. (4) (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

妊娠 39 週の妊婦が陣痛のため産科に入院した。入院後に羊水混濁を認め胎児の変動一過性徐脈、遷延性徐脈を呈したため緊急帝王切開となった。児は在胎 39 週、出生体重 2920 g、アプガースコア 1 分後 4 点、5 分後 8 点にて出生した。羊水は濃厚な胎便汚染を認めた。児は出生時筋緊張低下し、自発呼吸を認めなかった。

問 42. 本児に対して分娩中から出生直後に優先して行われるべき治療として、誤っているものはどれか。

- (1) 喉頭展開して、胎便が引けなくなるまで喉頭下を吸引した。
- (2) 背中をこする等の刺激を行い自発呼吸を促した。
- (3) ナロキシンの静注を行った。
- (4) 太い吸引チューブを用いて口鼻腔吸引を行った。
- (5) 胎児児頭の娩出後に口鼻腔吸引を行った。

a. (1) (2)            b. (1) (5)            c. (2) (3)            d. (3) (4)            e. (4) (5)

本児は蘇生を受けた後、NICU に搬送入院となった。入院時には陥没呼吸、チアノーゼを認めた。胸部単純 X 線写真 (図 5) を示す。

問 43. 児の治療方針として、正しいものはどれか。

- (1) インドメサシンの静注を行った。
- (2) マクロライド系抗菌剤を投与した。
- (3) 人工呼吸器に接続し、人工呼吸管理を行った。
- (4) 人工肺サーファクタントを用い気管支肺胞洗浄を行った。
- (5) ステロイド剤の全身投与を行った。

a. (1) (2)            b. (1) (5)            c. (2) (3)            d. (3) (4)            e. (4) (5)

問 44. 適切な治療を開始し多少改善が見られたが、その後急激にチアノーゼの増悪を認めた。急激なチアノーゼ増悪の原因となる病態の検査所見として、誤っているものはどれか。

- (1) 胸部単純 X 線写真で、肺外の透過性亢進領域と同側肺の虚脱。
- (2) 心臓超音波検査で、左心房への肺静脈還流の欠如と共通腔の存在。
- (3) 頭部超音波検査で、脳実質のエコー輝度上昇と脳室の狭小化。
- (4) 心臓超音波検査で、動脈管、心房中隔レベルでの左右シャントの存在。
- (5) 経皮的酸素分圧測定で、上下肢での経皮的酸素分圧較差の存在。

a. (1) (2)            b. (1) (5)            c. (2) (3)            d. (3) (4)            e. (4) (5)



【以下の間に答えよ】

問 45. 男性仮性半陰陽を呈する疾患はどれか。

- (1) アロマターゼ欠損症
- (2) 2 1 水酸化酵素欠損症
- (3) 1 1  $\beta$  水酸化酵素欠損症
- (4) 1 7  $\alpha$  水酸化酵素欠損症
- (5) 5  $\alpha$  リダクターゼ欠損症

a. (1) (2)            b. (1) (5)            c. (2) (3)            d. (3) (4)            e. (4) (5)

問 46. クレチン症（先天性甲状腺機能低下症）について、誤っているものはどれか。

- (1) 新生児マススクリーニングでは TSH を測定する。
- (2) 甲状腺発生異常のほとんどが散発例である。
- (3) 確定診断後にホルモン補充療法を始める。
- (4) 女兒よりも男児に高頻度である。
- (5) TSH 受容体遺伝子異常症は常染色体劣性遺伝形式をとる。

a. (1) (2)            b. (1) (5)            c. (2) (3)            d. (3) (4)            e. (4) (5)

問 47. 先天性代謝異常症について、正しいものはどれか。

- (1) ガラクトース血症（トランスフェラーゼ欠損）は早急な治療が必要である。
- (2) 先天性副腎過形成小では 1 1  $\beta$  水酸化酵素欠損症の頻度が最も高い。
- (3) わが国のフェニルケトン尿症の頻度は欧米よりも高い。
- (4) Gaucher 病の唯一の治療は骨髄移植である。
- (5) Fabry 病は X 連鎖性劣性遺伝形式をとる。

a. (1) (2)            b. (1) (5)            c. (2) (3)            d. (3) (4)            e. (4) (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

〔症例〕 1歳6カ月，女児

〔主訴〕 発達の遅れ

〔家族歴〕 血族結婚なし，両親の身長は母160cm，父172cm

〔既往歴〕 在胎36週，帝王切開にて出生，出生体重2,900g，出生身長47cm. APGARスコアは7-9-10点. 新生児高ビリルビン血症に対して3日間の光線療法を受けた。

〔現病歴〕 1歳6か月時，つかまり立ちしかできず. 体重増加も不良あり。

〔入院時現症〕 身長 68.4 cm (-3.9 SD)，体重 8 kg (-1.7 SD)，体温 36.4℃，脈拍 70/分. 前額部の軽度突出，鞍鼻を認めたが，上節下節比に問題なし。

〔検査所見〕 血算・肝機能問題なし，空腹時血糖 26 mg/dl，インスリン0.5 mU/ml  
総コレステロール 234 mg/dl

内分泌学検査（基準値）

TSH 0.2  $\mu$ U/ml (0.3-3.5)，FT4 0.4 ng/dl (1.2 - 2.4)，IGF-1 10 ng/ml 未満 (30 - 100)

PRL 2.0 ng/ml ACTH 10 pg/ml Cortisol 1.0  $\mu$ g/dl

〔画像所見〕 下垂体MRIにてinvisible stalk（下垂体茎の断裂）

問48. この疾患において、新生児から乳児期に見られる症状はどれか。

- (1) 無熱性けいれん
- (2) 胆汁うっ滞型肝障害
- (3) 高カルシウム血症
- (4) 色素低下
- (5) 低体温

a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5) d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)

問49. 速やかに補充を開始すべきホルモンはどれか。

- (1) カルシトニン
- (2) 成長ホルモン
- (3) グルココルチコイド
- (4) 1-サイロキシン
- (5) LHRH

a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5) d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)

問 50. この疾患において、学童期に見られる症状はどれか。

- (1) 下痢
- (2) 末端肥大
- (3) 長管骨の変形
- (4) 低身長
- (5) 二次性徴遅滞

a. (1) (2)      b. (1) (5)      c. (2) (3)      d. (3) (4)      e. (4) (5)

問 51. この疾患において、成人期に見られる症状はどれか。

- (1) 黒色表皮腫
- (2) 無月経
- (3) 内臓蓄積型肥満
- (4) オステオポロシス
- (5) 甲状腺腫

a. (1) (2) (3)    b. (1) (2) (5)    c. (1) (4) (5)    d. (2) (3) (4)    e. (3) (4) (5)

【以下の問に答えよ】

問 52. 自閉症について正しいのはどれか。

- (1) 幼少期の親のしつけが悪いと自閉症になる。
- (2) 言語発達は正常である。
- (3) 同じ遊びや玩具に執着する。
- (4) 他人と視線が合いにくい。
- (5) 男児より女児に多い。

a. (1) (2)      b. (1) (5)      c. (2) (3)      d. (3) (4)      e. (4) (5)

問53. 適切でないものはどれか。

- (1) チックを無理にやめさせることは好ましくない。
- (2) チックは男児に多い。
- (3) 児に対する言葉の暴力も虐待の一つである。
- (4) 被虐待児症候群の児で生命的な危険を予測しても、保護者が拒否したら入院させなくてよい。
- (5) 神経性食思不振症では、体重減少を来たす器質的疾患を除外する必要がある。

a. (1)    b. (2)    c. (3)    d. (4)    e. (5)

問54. 小児のけいれん性疾患について、正しいものはどれか。

- (1) 熱性けいれんの好発年齢は6ヶ月～5歳である。
- (2) 憤怒けいれん(泣き入りひきつけ)はてんかんに移行することが多い。
- (3) 大田原症候群は幼児期に発症する。
- (4) Lennox-Gastaut症候群の発作間欠期の特徴的な脳波所見はsuppression-burstである。
- (5) 欠伸発作は過呼吸で誘発しやすい。

a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5) d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)

問55. 小児のけいれん性疾患について、正しいものはどれか。

- (1) 熱性けいれんの好発年齢は6ヶ月～5歳である。
- (2) 憤怒けいれん(泣き入りひきつけ)はてんかんに移行することが多い。
- (3) 大田原症候群は幼児期に発症する。
- (4) Lennox-Gastaut症候群の発作間欠期の特徴的な脳波所見はsuppression-burstである。
- (5) 欠伸発作は過呼吸で誘発しやすい。

a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5) d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)

問56. 小児の筋疾患について、正しいものはどれか。

- (1) Werdnig-Hoffmann病の原因は神経筋接合部のアセチルコリン受容体の障害である。
- (2) Duchenne型進行性筋ジストロフィーは新生児期からフロッピーインファントで発症する。
- (3) Duchenne型進行性筋ジストロフィーでは血清CK値は高値を示す。
- (4) 福山型先天性筋ジストロフィーは脳奇形を伴う。
- (5) 重症筋無力症は筋生検で確定診断される。

a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5) d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)

【以下の文を読み問に答えよ】

9ヶ月女児。【出生・発達歴】在胎週数39週、体重3100gで出生。定頸は4ヶ月。現在ひとりでの坐位は不可能である。【現病歴】2週間前から頭部を前屈し、上下肢を一瞬だけ挙上する発作を繰り返し起こすようになった。また発作がはじまってからあやし笑いが少なくなった。発熱はみられず、明らかな外傷も認めなかった。小児科を受診したところ脳波検査をすすめられた。記録された脳波は(図6)の通りであった。

問57. 本症例について正しいものはどれか。

- (1) 受診時までの発達は正常である。
- (2) 発作型は強直間代発作(大発作)である。
- (3) 図1の脳波は発作時に記録したものである。
- (4) 図1の脳波所見はhypsarrhythmiaである。
- (5) 診断の確定のためには髄液検査を施行する必要がある。

a(1) b(2) c(3) d(4) e(5)

問58. この疾患について、誤っているものはどれか。

- (1) 通常、上記の発作のほかに複数の発作型がみられる。
- (2) 神経皮膚症候群の中でも結節性硬化症の症例で合併することが多い。
- (3) 精神運動発達遅滞を合併する。
- (4) 多くの症例でACTH療法を施行する。
- (5) 難治性のおてんかん(Lennox-Gastaut症候群など)に移行することはまれである。

a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5) d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)